いろいろな工夫（教育現場）

都立葛飾ろう学校 特別支援学校（聴覚） ｜ 葛飾区

手話とICTの組み合わせで、授業を円滑に

生徒の聞こえ具合によって、補聴器、人工内耳の活用から手話まであらゆるコミュニケーションを柔軟に採用。話し言葉を文字化するツールや聞こえを助けるICTを積極的に活用しています。

取組事例

- 声を補聴器や人工内耳に送信するデジタル補聴援助システム「ロジャー」を活用した授業展開。
- 話し言葉を文字化するアプリ「UDトーク」で教員との意思疎通もサポート。
- 校舎内の廊下や階段には衝突防止のミラーや、授業の開始・終了を知らせるライトを設置。文字情報にならないものは姿や光といった視覚情報で伝える工夫あり。
- 小中高の授業は、手話や口の動きを読みやすくするために、生徒が先生を囲む形（馬蹄形）で机を配置。

各教室に配置されたモニターを用いて、視覚的に情報を提示

都立光明学園 特別支援学校（肢体不自由・病弱） ｜ 世田谷区

絵文字を使ってコミュニケーション

肢体不自由児を対象とした日本初の公立学校。現在は小学部から高等部まで、肢体不自由・病弱の障害のある児童・生徒も在籍しており、一人ひとりの障害特性や理解度に合わせたICTを活用しています。

取組事例

- サポートが必要な児童・生徒のために、複数人の教員が授業に入って個別指導をする「チームティーチング」を実施している。
- 発話の難しい生徒には会話補助装置「トーキングエイド」を活用。絵文字や音声読み上げで意思疎通を図る。
- 絵カードを差す意思表示や文字入力をサポートするため、視線入力装置やダブルクリックとドラッグ操作を補助するトラックボールなどを使用している。

左がトーキングエイド、右がマウス操作を補助するトラックボール

筑波大学附属視覚特別支援学校 特別支援学校（視覚） | 文京区

携帯型点字情報端末を活用

点字による読み書きを身につけ、進学を見据えた教育を展開しています。幼稚部からさまざまな物に触れ、指先から情報を得られるようになることを目指し、中学部・高等部では携帯型点字情報端末を活用した学習を進めています。

取組事例

- 中学部から学習の補助ツールとして「ブレイルメモ」や「ブレイルセンス」と呼ばれる携帯型点字情報端末を用いることも。各端末はPCにおけるモニター部分が点字ディスプレイになっており、辞書やメモ機能、音声録音が可能で、点字使用者の学習におおいに活用されている。
- 全盲の生徒には点字を、弱視の生徒には墨字（通常の文字）を使い、個々の障害に応じて教科指導にあたる。
- 弱視で墨字を使う生徒は、入学直後に読みやすいポイント数やフォントを把握し、拡大教科書やルーペなどを適宜使用。

左がブレイルセンス、右がブレイルメモ

区立中野中学校 公立中学校 | 中野区

写真つきの指導で、持参物の整理も簡単に

障害の有無に限らず、すべての生徒に対する配慮が充実した公立中学校。誰ひとり取り残さない学校づくりを目指し、専門家等からの監修を受けた校内研究によるユニバーサルデザインの考え方を授業や学校環境に取り入れています。

取組事例

- 学校にストレスを感じやすい生徒には、「小さな居場所」を準備し案内。校内別室、教育相談室、複数の教室外スペースなど、教室以外の場所を複数用意している。
- 収納が苦手な生徒でも簡単に身の回りを整理できるよう、ロッカーや靴箱には写真をつけて明確化。
- 授業の集中を妨げないよう、黒板横の掲示物はカーテンで隠すなど視覚情報を整理。

ロッカーに置いて良いものは教科ごとに明確に示す

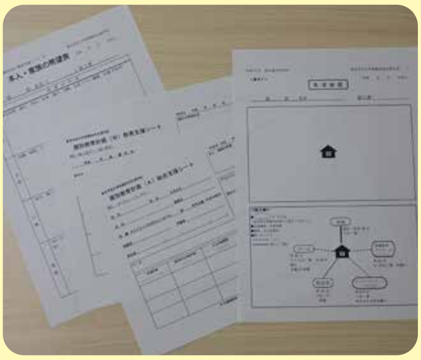
東京学芸大学附属特別支援学校｜特別支援学校（知的障害）｜東久留米市

個々の発達を支えるコミュニケーションを重視

生涯発達支援を校是とし、主として知的障害のある幼児・児童・生徒を対象に、就学前から卒業後までを見通した教育を実践しています。東京学芸大学の研究・実習とも連携しながら、教育実践に根ざした研究を継続し、学外の参観・教育相談等にも応じています。

取組事例

- 発語が難しい幼児・児童・生徒には、音声ペン・タブレット・絵や写真カード等を活用し、意思表示と情報理解を支える。
- 2択提示や視覚的な情報提示による質問など、本人に伝わりやすい提示方法や問いかけを工夫し、“伝わらなさ”を支援側の伝え方の調整によって補う。
- 地域生活への参加を見据え、家庭や本人のニーズをもとに「個別教育計画」（本人の目標と必要な支援やコミュニケーション手段を整理し、学校と家庭で共有する計画）を整備。



「個別教育計画」のためのシート。目標や支援方針、日常生活での手立てを共有しながら継続的に支援する

東京都立大学　公立大学｜八王子市

見えない・見えにくい人のための「言葉の地図」

東京都立大学のダイバーシティ推進室では、学内のダイバーシティ推進の取組の一環として、学生による「障がい者支援スタッフ」が授業や学内生活のサポートを行っています。その中で、視覚障害や地図の視認が難しい人向けの画面情報読み上げソフトに対応した道案内サービス「言葉の地図」を作成しました。

取組事例

- 学生主体で、「言葉の地図」を制作。
- 主要な道路や移動ルートの距離をウォーキングメジャーで測定し、ルート情報を言語化。年に1回程度のブラッシュアップを継続的に行う。
- 活動を通じて、多様な学部の学生が協働し、障害のある人の移動や情報取得の困難さへの理解を深めるとともに、当事者・支援者との対話や配慮を考えるきっかけが生まれた。

「言葉の地図」作成の様子。ウォーキングメジャーで距離を測っている

いろいろな工夫（職場）

ソーシャルグッドロースターズ 千代田 **福祉施設（就労継続支援 B型）** | 千代田区

ここは、働き方を選べる職場です

最新鋭の焙煎機が設置され、バリスタが常勤する本格的なコーヒー店にて、精神障害・発達障害のある利用者約40名が「焙煎」「ブレンド」「製造」「抽出」「接客」など、一人ひとりの能力や特性に合わせた仕事に取り組んでいます。

取組事例

- コーヒー豆の選定には一緒に手を動かしながら作業をし、ドリンクをつくるマニュアルには大きな写真を用いるなど、わかりやすさを重視。
- 当事者を「支援対象」として分けるのではなく、「同僚」として同じ目線で対話し、日々のやりとりの中で相互理解を深める。
- 仲間と働く中で、家族・支援者以外との関係性や相談先が広がり、本人の意思を起点にしたコミュニケーションの輪が育っていくよう支える。

デザインや営業にも力を入れており、ビジネスとしての収益を追求し、利用者に還元している

株式会社ニッスイ **食品メーカー** | 港区

「合理的配慮シート」で相互理解

「成長と活躍」のコンセプトのもと障害者雇用に取り組み、現在は管理部門・営業部門・生産工場など約30か所の職場で、障害がある従業員が活躍しています。

取組事例

- 障害がある従業員で構成する「ビジネストラストチーム」が、相談対応や業務面のフォローを通じて、「成長と活躍」にむけた従業員の育成・サポートを実施。
- 入社の際に、「社内での障害の開示範囲」や「苦手だが自己対処ができること」、「希望する配慮」などを記載する「合理的配慮シート」を活用。形骸化しないよう、適宜見直しをしている。
- 座談会やワークショップなど、障害がある従業員が“自分の言葉”で発信する機会を積極的に設けている。

「合理的配慮シート」の活用は、スムーズな業務遂行の工夫をともに考え、相互理解を深める機会につながる

いろいろな工夫（職場）

横河レンタ・リース株式会社 IT機器・計測器レンタル、システム事業 ｜ 新宿区など

作業マニュアルに必要なのは、正確な指示

知的障害や自閉症、学習障害があるメンバーが生産性を最優先に考えた障害者専門のチームにて、貸し出していた電子計測器の清掃や検査、事務・庶務などの作業にあたっています。特別支援学校高等部卒業者の定期採用を行っています。

取組事例

- 特性をふまえ「伝わりやすさ」を重視した作業マニュアルを運用。
- 「『どこで』『いつ』『どのようなやり方で』といった情報をもとに業務の指示出し・監督を行う」など、監督者が配慮すべき点を記載。
- アメリカで開発された、自閉症がある障害のある人への取組「TEACCH Program(自立支援プログラム)」を採用している。

仕事道具は、棚に番号を割り振って管理している

株式会社 N・SOURCE eスポーツ施設「re-vision」・フリースクール ｜ 立川市

ゲームで重ねる対話

引きこもりの経験がある人や、精神障害・発達障害のある10名のスタッフが働いています。オンラインゲームを通じて引きこもりや不登校状態にある子どもたちのコミュニケーションを支援し、施設内では学習支援も行っています。

取組事例

- 体調や特性に応じて「在宅（オンライン）」と「通勤（対面）」を選べる体制とし、業務連絡や相談をオンラインでも滞りなく行えるコミュニケーション手段を整備。
- 定期的に会議や面談を実施し、体調面や働きにくさをヒアリングして共有し、改善を重ねる。
- トレーニングジムを併設し、心身をリフレッシュできる環境を整えることで、安定した就労と日々のコミュニケーションを支える。

併設したフリースクールでは、引きこもりや不登校の子どもたち約30名を受け入れている

株式会社 accessibeauty

障害者専門芸能事務所・バリアフリー美容サロン・アクセシブル WEB メディア ｜ 渋谷区など

モデル現場から広げる「遠慮ではなく配慮」の姿勢

事務所には、車椅子ユーザー、聴覚障害、視覚障害、オストメイト（お腹に人工肛門・人工膀胱を造設した人）、知的障害、発達障害などの特性があるメンバーが38名所属しています。

取組事例

- バリアフリー美容サロンでは、聴覚障害があるスタッフが音声を自動で文字起こしするシステム「VUEVO(ビューボ)」や「YYSystem(ワイワイシステム)」を活用し、接客。
- 現場で関わる人たちに「配慮はするけど遠慮はしない」という理念を伝え、必要な配慮の範囲を共有することで相互理解を促す。
- 全メンバー・スタッフに徹底したヒアリングを行い、個々の特性や希望を関わり方・コミュニケーションに反映している。

バリアフリー美容サロンの様子。令和7年には「東京都ソーシャルファーム」にも認定された

株式会社物語コーポレーション

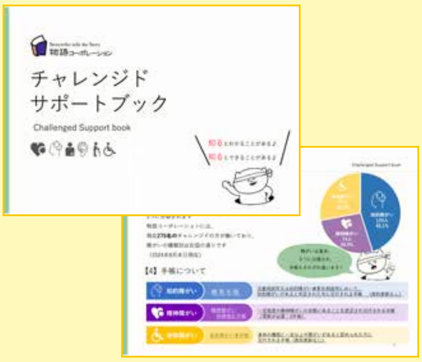
飲食店 ｜ 新宿区など

チャレンジド・サポートブックで社内理解を促進

2020年から積極的に障害者雇用を推進し、知的・精神・身体障害のある従業員が、275名働いています。障害のある従業員を「チャレンジド」と呼称し、多様な属性の人たちが活躍するための仕組みづくり、実践を行っています。

取組事例

- 店長・責任者向けに、障害特性と配慮のポイントを整理した「チャレンジド・サポートブック」を作成し、現場での共通認識づくりに活用。
- チャレンジド・サポートブックはイラストや図を用いて情報を可視化し、安心して働けるためのコミュニケーションの土台を整備。
- 特別支援学校の職場体験実習を全国で受け入れ、学校と職場が相互に理解を深める機会として、就職への接続につなげる。



「チャレンジド・サポートブック」。イラストや図を用いながら、誰にでもわかりやすい解説を心がけている